

第 10 回 SC 委員長会議報告

下記の内容で第 10 回 SC 委員長会議が開催されました。

日 時： 2008 年 7 月 14 日（月）13:30～17:25

場 所： 電気学会 第 3～5 会議室

出席者： 各 SC 国内分科会委員長，JNC 委員長，副委員長，幹事団他

議事内容

(1) 開会挨拶

冒頭，林委員長より，「パリ大会直前で各 SC の活動が大変な時期。レギュラーメンバーが交代し，新たな体制の SC も多くあるかと思うがよろしくお願ひしたい。また，会員数増加に協力いただいたおかげでアジア・オセアニア地域で 2 位の等価会員数となり，本部執行委員会の議席を確保できたことについて御礼申し上げる」との挨拶があった。

(2) 本部執行委員会議事概要について（林委員長）

5 月 1 日にタスマニアで開催された本部執行委員会でのポイントを林委員長より紹介。

- ・ TC 委員長の Froehlich 氏が精力的に活動。D1 関連のテーマ（新技術）は全 SC に関わる事項であり，大きな命題。D1 の名称も再考する必要あり。
- ・ SC メンバーで不活発なメンバーには厳しい対応をとる（再選不可）。日本については心配していない。自国の SC メンバーの活動状況を把握したがっている国もある。
- ・ 財務状況は良好。なお，課税の軽減が課題であり，大きな収益が上がらないよう，各 SC 活動への援助などを行っている。
- ・ 本部執行委員の 12 議席は，2006 年時と同様，欧州 6，南北アメリカ 3，アジア・オセアニア 2，アフリカ・中東 1 で決定。アジア・オセアニアからはオーストラリアと日本。中国は選挙にまわるが，インドは今回立候補していない。
- ・ 会長候補として Merlin 氏以外に，Pauw 氏も立候補（Merlin 氏が有力）。財務担当は Esmeraldo 氏 1 名のみなのでほぼ決まり。
- ・ CIGRE の表彰の格を上げたいということで，CIGRE Medal を新設（1～2 名／2 年）。対象者はパリ大会の開会式で表彰。
- ・ パリ大会の論文を出す段階で，国内委員会がよく見て絞り込みを行うべき。Exhibition の数が増え，1 ブースあたりの面積縮小。Registration で初期トラブルあり。
- ・ アクションプランとして，会員数増加に向けたフォローを実施すべき。

(3) AORC 会議開催について（服部幹事）

5/2～8 にジャカルタ（インドネシア）で開催された AORC 会議について，服部幹事より概要報告。

- ・ B1,B4,C1 国内委員長にご尽力頂き感謝
- ・ Tutorial については、各々100名程度の参加があり、活発に議論がなされた。専門知識がなくてもわかりやすい Tutorial であった。
- ・ Administrative Meeting で、中央事務局から資金援助が受けられるとの日本からの情報提供に対し、感謝の意が示された。議長の Manglick 氏と Salle 幹事の再任が決定。2009 年は韓国での開催を打診中。
- ・ Technical Meeting で Round Table を開催。6 名のパネリストと聴衆間にも活発な意見交換がなされた。日本からの講演（紀伊水道、北本連系）も好評であった。セッションについても 6 つに分かれる AORC としては過去最大級の規模であった。

(4) 2007 年 CIGRE 大阪シンポジウム会計報告について（目黒幹事）

大阪で開催されたシンポジウム（3SC ミーティング含む）会計について、目黒幹事より概要報告。

- ・ 海外 100 名、日本 200 名の参加を想定していたところ、339 名が参加。
- ・ 本部より各 SC あたり 12,000 ユーロずつ、計 36,000 ユーロの支援があり、これに本部側での余剰金 3,880 ユーロを加えた 39,880 ユーロを本部側で、一旦デポジットいただき、今後の年会費、パリ大会登録費と相殺することとした（為替リスク回避）。
- ・ 大阪コンベンションセンターからの補助金は最高額である 70 万円の収入（H19）。
- ・ 同時に開催された WG に関わる費用 261,230 円を支出（H19）。
- ・ 収入：54,571,017 円、支出：39,624,567 円⇒収支差：14,946,450 円。
- ・ 最終的に大阪シンポジウム実行委員会より JNC に対し、7,671,619 円の戻入あり。
- ・ 各 SC、シンポジウム実行委員会にコストダウンの努力をして頂いたことに感謝。

(5) 2008 年第 42 回パリ大会準備状況について（報告）（目黒幹事）

2008 年パリ大会の準備状況について目黒幹事より報告。

- ・ 6 月 30 日現在の登録者数 75 名（うち、1 名は学生、各国 2 名までは登録料免除）
- ・ 日本主催パーティへの招待者（外国人）270 名程度に招待状を発送済み。
⇒外国人招待者への招待状には余部があるため、必要な場合は相談してほしい。
- ・ 日本人参加者に対しては、8 月第 1 週に案内状を発送予定（前回よりすべての日本人も外国人招待者と同様に 19 時に来場頂くこととしている）。
- ・ JNC 控室は昨年と同様の場所（233M）を確保済み。
- ・ NC 代表者会議が 8/27 に開催。会議に先立ち、レポートを提出済み。

(6) 2008 年 CIGRE パリ大会優秀日本論文の選考結果（福井幹事）

2008 年 CIGRE パリ大会優秀日本論文の選考結果について福井幹事より報告。

- ・ 役員会で十分審議した結果以下の 2 編について甲乙つけがたく、2 編とも優秀論文とし、最優秀論文は該当無しとした。

SC-A1 “Rich Operation Experiences and New Technologies on Adjustable Speed pumped Storage System in Japan”

SC-C6 “Operational Analysis of a Micro grid: the Hachinohe Demonstration Project”

(7) 2011年以降のSCミーティング日本開催について（三島幹事）

資料に基づき、三島幹事より説明。

- ・2回/2年のSCミーティング日本開催可能とした予算立てをしていること、JNCとしては、2年に最低1SCは日本で開催する方向としたい。
- ・2011年はA2のみ決定。予算的にはあと1つ開催可能。A2と共通テーマ、同一場所開催などにより極力コストダウンを図ることが望ましいこと、これまで、日本で開催していないSCを優先。（A2については、現段階では京都開催を考えているが未決定）

(8) 日本CIGRE国内委員会執行委員会の開催について（三島幹事）

資料に基づき、三島幹事より説明。

- ・これまで、JNC役員交代時など、書面でのみ開催してきたJNC執行委員会を、JNC活動全般に関する幅広い意見交換を目的に、本年秋（11月頃）に実際に委員の方々にご参集頂き開催する計画である。
- ・早めの日程調整が必要であるが、各委員の方々のご予定を確認していると調整がつかないことが懸念されるため、JNC役員（委員長、副委員長）の都合の合う日で開催日を決めさせて頂く方向。

(9) CIGRE会員数の状況について（三島幹事）

資料に基づき、三島幹事より説明。

- ・昨年SC委員長会議で、会員数増加を依頼し、各SC国内分科会の積極的な活動のおかげで、会員数が大幅増加したことについて報告。御礼を申し上げた。
- ・林委員長の開会挨拶の通り、本部執行委員の議席を獲得できたことについて報告。
- ・他国の状況から、気を抜いていられる状況ではないことから、引き続き、会員数増加への取り組みを各SC委員長に依頼。
- ・中国は今後も増えていく見通しか。
⇒中国は、日本を相当意識している。オーストラリアも然り。
- ・各SC委員長に新規入会の申込用紙（フォーマット）を送付することとした。

(10) CIGREパリ大会報告の電気学会B部門論文誌への投稿原稿作成のお願い（福井幹事）

資料に基づき、福井幹事より依頼。

- ・広報活動の一環として、例年通り、「CIGREパリ大会の概要」を電気学会B部門論文誌に投稿する予定である旨説明。
- ・各SC委員長に対して、SCグループミーティング状況についての原稿案の作成を依頼。
（Word文書で提出のこと、PDFは不可）
- ・別途、事務局よりメールにて依頼文を各SC委員長宛に送付することとした。

(11) 各SCからの報告と質疑（各SC国内分科会委員長または代理）

資料に基づき報告があった。主な議事は下記のとおり。

A1：宮池委員長（東芝）

- ・パリ大会期間中にWG.A1.05と06は開催されるか未定
- ・オープンセッションの中で、パネルディスカッションを開催する予定。当初はタービン

発電機に限る方向であったが、水車発電機も対象となった。

- ・パネルディスカッションは本当にできるのか。誰がやりたいと言っているのか？
→南アフリカの現委員長。しかし、今回、ブラジルの方に委員長交代となる。
- ・既に進行中の WG に関する TOR が送付されてきてとまどっている。開始がすべて 2008 年となっており、位置づけが不明
⇒本部にクレームした方がよいか。
- ・ SC ミーティングの予定は、オーストラリア、アメリカと続き、次のアジアは中国の予定であり、日本開催は 2015 年以降か。
A2：白坂委員長（日本 AE パワーシステム）
- ・ AG.A.2.7「UHV Transformer AC&DC」の Convener に白坂委員長が就任。
- ・ WG は新しいものに入れ替わりつつある。
- ・ CIGRE オーストラリアパネルの A2 で変圧器防災関係のコンファレンスに協力し 4 件報告。
- ・ 2009 年コロキウムの日程は変更があり得る。2011 年は日本で SC ミーティング開催。
- ・ パリ大会セッションの PS1 のスペシャルレポーターに白坂委員長が選出。
- ・ 2011 年の SC ミーティングの場所を早めに決めた方がいいのでは。
→他の SC も参考に考えたいが、現状京都が有力である。準備委員会も早めの結成を考えたい。

A3：伊藤委員長（三菱電機）

- ・ WGA3.06「高電圧機器の信頼性調査」の第三回調査に英国、フランス、イタリア、ブラジルなど CIGRE 主要国の参加が得られなかった。特に、GIS は日本データが 67%も占めており、国際的な信頼性評価が困難な母集団となっている。
→第一、二回は、世界全体のデータと、日本だけのデータに基づく故障発生率を評価している。
- ・ WGA3.19「三相地絡時の TRV」では、三相地絡を想定した SLF 試験の規格化をめぐり、欧州勢と（IEC 側）と米国勢（IEEE 側）の意見対立が強まり、米国 Convener が辞任、国際規格化において、国際利害が烈しく対立した事例となった。
- ・ WGA3.22：UHV 国際標準化は、日本技術をベースにした推奨規格に多くの欧米専門家が賛成してくれること、中国と協調した調査とすることに重点を置いて活動中。
- ・ A3 と B3 は、2005 年日本会議の成功により、奇数年を合同で開催する方向。

B1：片貝委員長（ジェイ・パワーシステムズ）

- ・大阪シンポジウム時に開催された Technical Contribution では、ホスト国の特典で 90 分の時間を与えられ、インパクトのある発表ができた。
- ・ WG.B1.10「地中ならびに海底ケーブルシステムの運転実績」では、日本のデータが半分以上あり、事故率が極端に低く、とりまとめに苦慮。
- ・新たに設置された WG B1-27「交流海底ケーブル試験法」は将来 IEC 規格化につながる WG であり、ビスキャスの中島氏がレギュラーメンバーとして参加。

- ・韓国勢の鼻息が荒い状況であり、プロジェクトが旺盛な中、本当の意味での技術の優位性を話していかなければ価格で負けて日本は苦しい状況となるのでは。
- ・コレスポンディングだけではなく、レギュラーメンバーとしての WG 参加を増やしていきたい。

B2：前川委員長（電源開発）

- ・来年には現在の WG をすべて終了し、4つの Technical Advisory Group を設置し、その下に単一のトピックスを検討する2～3年間の WG を設置。
- ・SC ミーティングは2009年が韓国、2011年がオーストラリアということもあり、日本開催はしばらくはないのでは。
→アジア・オセアニアがさらに続くという可能性はないかの感触を聞いて頂く。

B3：小林委員長（東京電力）

- ・パリ大会の論文は28件中24件が採択。うち日本からは3件が採択された。
- ・AA3のアドバイザーに中部電力の川北氏が就任の予定（2008年8月）
- ・AA2については、ガス規制に関する各国の状況の意見交換の場となっている。
- ・パリ大会の論文数が減った理由は。
→前回は新興国を含め、質が低いものが多かったためと、ABBからの論文が少ないのも一因か。
- ・WG A3.22 と WG B3.22 の関係は。
→A3は伊藤委員長が Convener を努め、機器単体为中心。B3は変電所の母線構成やEMF、環境関連などシステム全体として見ており、協調をとってやっている。
- ・日本のセミ GIS（福島の開閉所）が ELECTRA 8月号の表紙を飾る予定。

B4：高崎委員長（電力中央研究所）

- ・コントリビューションが可能な WG に参加。日本のコントリビューションが困難な WG も多い。
- ・2025年時点でタイが10GWの需要超に対し、マレーシア・インドネシア・ミャンマー・ラオスの供給余力を供給するといった話がある。（ASEAN Power Grid 構想）
- ・SC ミーティングの日本開催は当分ない。
- ・AORC にはなぜ中国がでないのか。
→中国からの発表はあった。理事会には権限のない者の形式上の参加であった。インドはどこにも出てこなかった。
→インドは本部執行委員にも立候補しておらず、動きが読めない状況。
- ・アセアン連系への日本のコントリビューションの余地は。
→何か suggestion をいただければ。
→安倍首相の時に資金援助の話はあったらしい。（経済的支援を期待か）
- ・IEC に HVDC の TC を立ち上げる動きがあり、CIGRE では B4 が受け皿となる。

B5：伊藤委員長（中部電力）

- ・近年の優先議題は IEC61850（システムバス関連）中心であり、日本は導入していないた

め論文が書けない状況。

- ・ 17 の WG が活動しており、日本は 4WG に参加。うち、WG B5.19「保護リレー協調」は日本が Convener を努めている。
- ・ SC ミーティングは 2011 年はアジア以外（ポルトガルが立候補中）。20 年以上日本で開催していないため、2013 年あたりで日本への誘致活動を進めたい。
C1：高野委員長（関西電力）
- ・ パリ大会期間中にポスターセッション開催予定。
- ・ パリ大会で、新エネ、環境に関する WG を立ち上げる予定。
- ・ WG の上に AG はあるのか。
→新しい WG を提案する 3 つの AG がある。
C2：長江委員長（中国電力）
- ・ Large Disturbance に「中越沖地震による電力系統の影響」についての発表が採択されたが、東京電力から出席が困難との話を伺っている。
→東京電力は今回地震の影響で海外出張者をかなり制限されている。レギュラーメンバーや JNC 幹事は出張予定なので、可能な限り東電内で対応できるよう調整したい。
- ・ 現段階で SC ミーティングの日本開催予定はない。しかし長い間日本で開催していない。2009 年は中国で決定しているため、2013 年の日本開催に向けて努力したい。
C3：中神委員長（関西電力）
- ・ SC ミーティングは 2009 年がポルトガルに決定済み、2011 年はオーストラリアが手をあげると聞いているので、日本で開催する場合は 2013 年以降か。
- ・ 活動が軌道に乗ってきたということか。発足当初は地球温暖化ガスが中心だったかと思うが。
→垂直統合の電力は発電所をメインとしたいが、発送分離の送電会社は発電所には興味がない状況。現在は送電線関連の環境問題をやろうという流れではある。
- ・ EMF の検討も結構入ってきているようだが。
→元々、EMF を中心に活動をしてきたところ、地球環境問題のテーマが入ってきて性格が変わってきたという状況か
C4：本山委員長（電力中央研究所）
- ・ 2009 年 SC ミーティングを日本（釧路）で開催。
- ・ 2009 年コロキウム論文を 2010 年 1 月発行の電気学会英文論文誌の特集号として載せたいと考えている。
- ・ UHV システムに関する新 WG 設立の提案があり、絶縁協調に関する WG の Convener は東電財満氏。油入変圧器の内部絶縁に関する WG の Secretary に東電岡部氏。
- ・ コロキウム論文のコピーライトはどこが有するのか。
→本部の規程を確認したところ、著者から CIGRE にコピーライトを委譲に関する規定はない模様である。
→論文をもう一度全て電気学会の査読システムにのせるということになる。そうすると

一度公表された論文を別の学会出すに二重に出すことになる。

→正しくいうとコロキウム論文の発行権は SC (C4) が持つようである。C4 委員長の承認があれば基本的に OK というのが規程上定められているルールである。従って、二重投稿の問題はないと考えている。

→全ての論文が英文論文誌に載るというのではなく、査読に通ったものだけが載るという認識でよいか

→そのとおり。最終的にはコロキウム論文の 1 割程度が載ればいいと考えている。

→コピーライトの問題はしっかり確認すべき。

→了解した。

C5 : 岡本委員長 (東京電力)

- ・本部から SC-C5 は不活発な印象を受けており、WG も放置状態のものがある。
- ・JWG C2/C5-05, WG C5-7 などは活発に活動しており、日本からも積極的に参加。
- ・今回 Chairman 交代となるが、その影響はパリに行って確認することが必要。
- ・SC ミーティングは 2009 年が中国なので、2011 年の日本開催はないと思われる。2013 年以降か。
- ・対応スタンスの明確化が必要と考えている。現在は海外自由化情報の正確な収集と人脈形成に力点。
- ・日本の状況 (日本型モデル) の打ち出し方など、まずは国内分科会内の認識をあわせながら進めたい。

C6 : 吉永委員長代理 (東京電力) (大山委員長欠席のため代理出席)

- ・新たな WG C6.15 「電力貯蔵」が本年パリ大会で立ち上がる予定であり、中部電力の方に対応頂く予定
- ・SC ミーティングは 2009 年がカルガリー (カナダ)。次回パリ大会かカルガリーでの様子を見ながら、2011 年、2013 年の日本開催を探っていきたい。

D1 : 長尾委員長 (豊橋技術科学大学)

- ・パリ大会の論文は採択論文 24 件中 3 件が日本からのもの。
- ・パリ大会期間中にかなりの WG, TF が開催されるが、AG D1.02, WG D1.33 (高電圧試験と計測技術) は、パリ大会後にスペインで開催予定。
- ・TC から AG, WG の数が多いとの指摘を受けているが活動範囲が広いので仕方がない面もある。AG については削減の方向で努力している。
- ・先進技術について、D1 としてはパリ大会の優先課題でも多くの論文を発表し努力を続けているが、これまでの経緯でメンバーに絶縁材料技術の人が多いため、苦労している状況。
- ・2007 年の SC ミーティングの開催地について、D1 と A2 との共同開催を目指したベルギーは D1 と A1 との共同開催を提案した韓国との決戦に敗れた。2009 年はまだ正式に決まっていないが、前述の 2007 年の開催地における経緯もあり、2011 年の A1 との共同開催を日本で行う可能性はある。

D2：山崎委員長（九州電力）

- ・2009年SCミーティングを福岡で開催予定であるが、電気新聞に取材して頂くことを提案したい。会員数増加活動にも寄与するのではないか。

(12) その他

①特別会員について（福井幹事）

- ・JNCから本部に推薦していた3名の方々（森氏、水谷氏、市田氏）の特別会員の表彰が決定した。JNCとしての表彰は来年の総会にて行う。

②幹事交代について（福井幹事）

- ・7月の人事異動により、東電の三島幹事が定梶幹事に交代となる。執行委員会の承認までは定梶幹事代理。任期はJNC規程に基づき三島幹事の任期の残り（2008年12月31日まで）を引き継ぐ。

③本部理事・執行委員の交代について（林委員長）

- ・正式には国内執行委員会の承認事項だが、本部の理事・執行委員に関して、本年パリ大会で、田井副委員長に交代することで進めている。また、国内委員長についても、次の任期（来年1月1日）から田井委員長にお願いすることとしている。

(13) 閉会挨拶

田井副委員長より、以下の通り閉会の挨拶があった。

- ・日本の各メンバーが存在感の高い活動をされているのはすばらしいことだが、国内において、海外ほどの存在感がないのは誠に残念である。電気学会のプレゼンスが下がっているという話もあり、電気技術者のプレゼンス向上に向けて、是非、CIGREとも共同歩調を取って対応して行きたい。
- ・電気新聞の取材対応なども、情報発信の位置づけで、もっとやった方が良いと思う。電気学会ではホームページを充実させたが、CIGREともリンクをはって、お互いの活動が見えるようにしていくのも良いだろう。
- ・中国では、エネルギーの必要性がますます高まっており、電力技術への期待は大きなものがある。電気工学科のレベルは高く、学生の人気も高い。今後そういった人たちが世の中に出てきて、日本の技術者と一緒に仕事をするような機会も増えてくるだろう。
- ・世界に打って出る日本の電気技術者の存在感を向上させるような仕組みを構築していきたい。また、英文化を含めて、色々なドキュメントを蓄積し、人が変わっても使えるようにしておくことも重要である。
- ・今後とも、CIGRE活動の活性化に向けてご協力をお願いしたい。

懇親会： 17:30～19:00 アルカディア市ヶ谷にて懇親会を実施した。

以上